

第5次結城市総合計画実施計画策定及び行政評価シート

担当部署	部局名	教育委員会
	課名	生涯学習課
	係名	文化係
	記入者	
	電話(内線)	634,635

1. 事業の概要

(1) 事業種別 [新規又は継続]	継続		(2) 事務事業 の名称	重要無形文化財結城紬伝承事業				(3) 事業の 優先度	A		
(4) 総合計画での位置づけ					(6) 事業主体		市				
① 事業の区分	主要事業					(7) 予算・ 財源等 の種別	事業の性質	一般事業費(ソフト事業)			
② 施策コード	35101	(総合計画掲載ページ)		109	ページ)		会計区分	一般会計			
基本目標(政策)	3歴史と自然を育む活力あるまちづくり(産業)						財源区分	国庫補助			
基本施策	3-5つちかわれた技術を継承する伝統産業の振興(伝統産業)						予算科目	款	項	目	
施策	①伝統工芸の保存・伝承						予算書上の	※財団への直接補助			
施策内容	1結城紬の保存・伝承						事業名称	(予算書			ページ)に掲載)
(5) 事業期間	開始		23	年	10	月から	(8) 事務分類			自治事務	
	終了			年		月まで(	根拠法令				

2. 事業の目的及び内容

(1) 対象(だれに対して・何に対して行うのか)	(3) めざす姿(意図・どのような状態になるのか)
・重要無形文化財結城紬 ・本場結城紬技術保持会(補助金受入先) ・本場結城紬技術保持者及び技術伝承者	本場結城紬技術保持者の後継者を育成と併せ、技術保持者の技術向上を図ることにより、結城紬を後世まで伝える。
(2) 手段(事業内容・どのようなことを行うのか)	(4) 事業開始のきっかけや他市の状況など (※ 1-(8)事務分類が法定受託の場合は記入の必要なし)
○事業規模:全額国庫補助金10,300千円 ○伝承者養成事業の実施 ・保持会員が後継者である伝承者にマンツーマンで指導を行い、年度内に保持者・伝承者ともに反物を制作する。 ○研修生養成事業の実施 ・結城紬制作経験の少ない研修生を募集し、保持会員が交代で糸つむぎ・機織りの基礎を指導する。 ○講習会の実施及び啓発 ・一般向けの糸とり講習会の開催や成果品の展示・貸出を行い、結城紬の保存に向けたPR周知を行う。	本市代表する伝統産業であり、重要無形文化財にも指定される結城紬であるが、需要減少に伴い、製作者の減少傾向や高齢化が危惧される状況にあることから、伝統技術を保存・継承及び後継者を育成するため、国の支援(補助金)制度を活用した事業として開始された。
(5) 事業をとりまく環境の変化(社会環境、市民ニーズ等)や市民・議会の要望、意見等とそれに対する対応	
結城紬は、昭和31年に国の重要無形文化財の指定を受け、日本を代表する伝統工芸の一つとして高い評価を受けてきた。しかし、昨今の生活様式の変化や景気不振、さらに後継者不足による生産者の減少により、生産量は最盛期の2割以下に落ち込むなど、その伝承・保存が危惧されている。重要無形文化財結城紬伝承事業では、結城紬の伝承・保存を目的とし、技術者の養成に努めている。	

3. 事業コスト

行政評価		実績内容の評価		検討・改善		検討・改善内容を反映					
実施計画											
● 予算内訳		実績額（千円）		当初予算額（千円）		計画額・見込額（千円）					
事業内容		27 年度		28 年度		29 年度		30 年度		31 年度	
(1) 事務事業費の コスト	事業費										
		結城紬技術保持会へ									
		直接補助									
	合計										
	財源	国庫支出金（千円）									
		県支出金（千円）									
地方債（千円）											
その他特定財源（千円）											
一般財源（千円）											
合計（千円）											
補助・起債制度名		国宝重要無形文化財等保存整備費補助金		国宝重要無形文化財等保存整備費補助金							

4. 指標の検証（活動指標・成果指標）									
指標の名称				単位	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度
(1) 活動指標（実施した事業の内容）									
指標名	技術保持者・伝承者による反物・帯制作	目標値	反		10	12	12	12	
		実績(見込)値		19	10				
	講習会等	目標値	回		10	10	10	10	
		実績(見込)値		5	10				
(2) 成果指標（事業実施によるめざす姿の達成度）									
指標名	本場結城紬技術保持会会員数	目標値	人		96	97	98	100	
		実績(見込)値		95	96	97	98	100	
		達成率		95.0 %	96.0 %				
		目標値							
		実績(見込)値							
		達成率	%	%					
5. 事業評価									
(1) 平成27年度の行政評価結果をうけて、平成27年度に取り組んだ改革改善点があれば記載してください。									
(2) 項目別評価									
評価項目・客観的評価				理由					
必要性	事業の必要性	A	必要性は高い	重要無形文化財として、その伝統的な制作技術は後世に残す必要があるが、技術保持者の高齢化が進んでいるため後継者の育成は急務である。					
妥当性	実施主体の妥当性	A	妥当である	国指定の文化財として法的な問題があり、行政が行うべきである。					
	手段の妥当性	A	妥当である	技術者の高齢化に伴い本場結城紬技術保持会の会員数は減少傾向にあるが、後継者を目指す数は増えている。					
効率性	コスト効率 人員効率	B	どちらとも言えない	反物生産数の減少に伴い、原料や制作器具の購入が難しくなっている。					
公平性	受益者の偏り	B	どちらとも言えない	おおむね幅広く便益を提供している。					
有効性	成果の向上	B	どちらとも言えない	本場結城紬技術保持会員の減少は避けられないが、平成28年度の研修生募集人数が機織り1名、糸つむぎ5名であったことなど、後継者の育成は着々と進んでいる。					
進捗度	事業の進捗	B	どちらとも言えない	後継者育成は順調であるが、後継者の就職先の確保などが課題となっている。					
(3) 総合評価 上記評価を踏まえて事業全体について評価し、問題点・課題等を指摘してください。									
後継者の育成は機織り、糸つむぎの分野で順調に行われているが、技術保持者と認められるまでに年数を要するため、本場結城紬技術保持会の会員数の減少傾向を止めることが難しい現状である。絣くりの分野では、後継者育成が進んでおらず、今後は絣くりの後継者育成を検討する必要がある。 また、この伝承事業をいつまで国庫補助を受けてできるかがわからず、国庫補助がなくなってしまった際の対策も考えていく必要がある。									
(4) 対応策・提言等 この事業を今後どのように改善・改革をしていきますか？									
後継者を育成するだけでなく、後継者の就職先の確保を行う。絣くりの後継者育成を新しく実施する。 伝承事業のような補助事業がその他どのようなものがあるか把握していく。									
6. 事業の方向性判断									
評価主体		28年度以降の事業の方向性			評価理由・根拠				
(1) 記入者評価 記入者が評価を行う		改善・改革しながら継続（成果向上・コスト維持又はコスト削減、成果維持・コスト維持又はコスト削減）			注）記入者は「5. 事業評価」を記載するため、この欄は未記入で結構です。				
(2) 一次評価 担当課長が評価を行う		改善・改革しながら継続（成果向上・コスト維持又はコスト削減、成果維持・コスト維持又はコスト削減）			結城紬の後継者の、効率的かつ長期的な育成を図りながら、技術保持者の増加に努め、結城紬の伝統的な技術の伝承を推進していく。				
(3) 最終評価 企画調整会議において評価を行う					上記評価のとおり。				